

## イネいもち病とクモヘリカメムシ発生地域区分に基づく防除

[要約] いもち病の発生地域は3群に分類される。クモヘリカメムシは県内全域に広く分布する。いもち病とクモヘリカメムシは同じ地域で多発生することが多く、この地域では防除を行う必要性が高い。

農業総合センター農業研究所

成  
果  
区  
分

技術情報

### 1. 背景・ねらい

いもち病およびカメムシ類は、本県で最も問題となる水稻病害虫である。これらを的確に防除するために、その発生分布と発生量を明らかにする。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) 病害虫発生予察巡回圃場のいもち病発生データ(平成9～21年)のクラスター分析を行い、いもち病発生地域を3群に分類した。群は、葉いもちの発病程度が毎年「少」～「中」となることが多く、多発生年にはズリコミが発生する水田も見られる。群は、葉いもちの発病程度が毎年「少」程度であり、多発生年には発病程度の高い水田も見られる。群は葉いもちの発病程度が、「無」～「少」程度である。(図1、表1)
- 2) 平成21年までの各種調査結果から発生分布を検討したところ、クモヘリカメムシは、一部海岸部を除き県北地域、県央地域、鹿行地域の全域で発生が多い。県南地域でも石岡市、かすみがうら市、土浦市、つくば市、阿見町、美浦村、龍ヶ崎市などで発生の多い水田が認められ、その他の地域でも畦畔雑草等で生息が認められる。県西地域では桜川市で発生の多い水田が認められ、その他、筑西市、下妻市、坂東市では畦畔雑草等で生息が認められているので、今後注意が必要である。(図2)
- 3) 茨城県内の水稻病害虫防除のための区分図を作製した。その概要は以下のとおりである。(図3)
  - A: いもち病とクモヘリカメムシの発生と被害が見られる地域で、いずれに対しても防除を行う必要性が高い地域
  - B: いもち病に対する防除の必要性は低いが、クモヘリカメムシに対する防除の必要性が高い地域
  - C: いもち病に対する防除の必要性は低いが、クモヘリカメムシの発生に注意し発生に応じた防除が必要な地域
  - D: いもち病の発生は少なく、クモヘリカメムシの発生は認められないため、これらに対する防除の必要性が低い地域

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) いもち病の分析に使用したデータは、慣行的な防除が行われているほ場のものである。
- 2) 区分図は、地域の傾向を示したものである。同じ地域でも、年次や立地条件等により病害虫の発生状況に差がある。このため、発生予察情報を活用するとともにほ場の発生状況を把握して、防除を実施する。

#### 4. 具体的データ

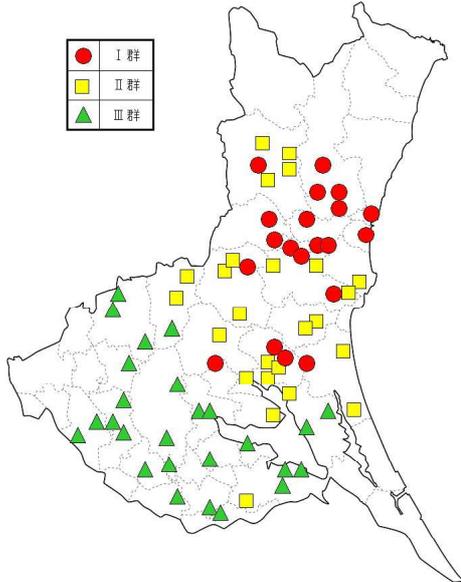


図1 いもち病の発生地域区分図

表1 各群のいもち病発生状況

群	葉いもち (発病度)	穂いもち (発病総率)
I群	18.9	1.4
II群	6.2	0.8
III群	1.3	0.1

注) 数値は、各群の平成9～21年の  
平均値

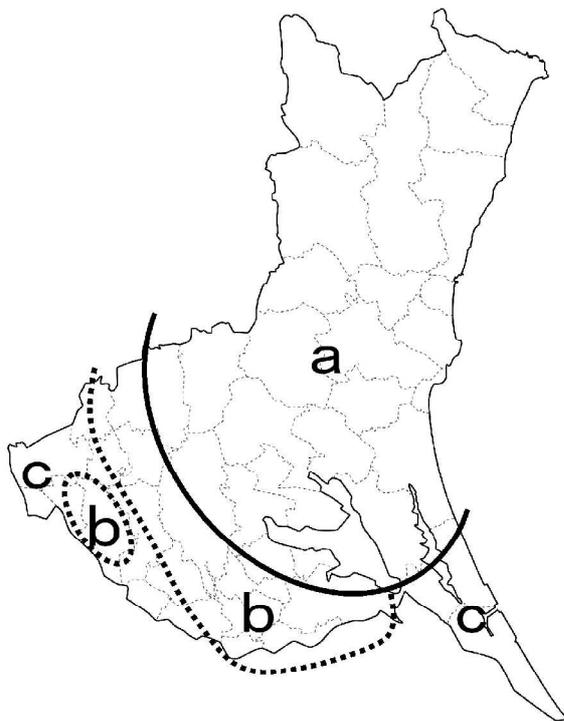


図2 クモヘリカメムシの発生分布

- a : 水田でクモヘリカメムシの発生が多い地域
- b : クモヘリカメムシの発生が水田では少ないが畦畔などのイネ科雑草で生息が認められ、注意が必要な地域
- c : クモヘリカメムシの発生が認められない地域

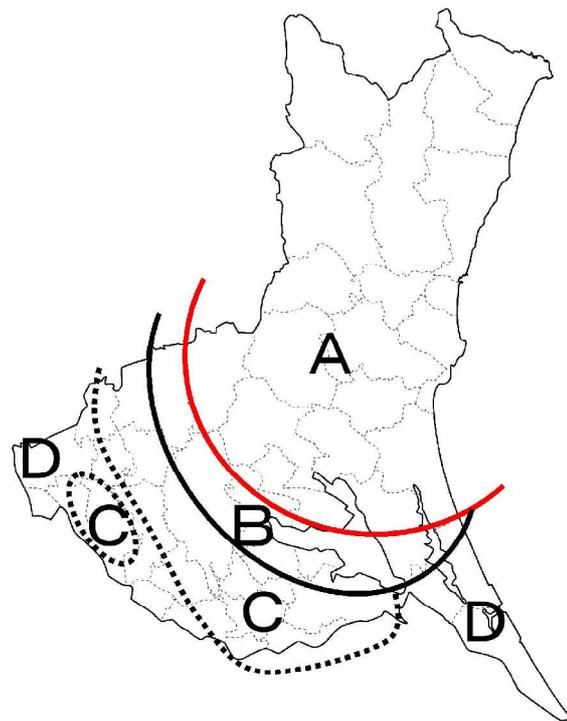


図3 水稻病虫害防除のため区分図

- A : いもち病とクモヘリカメムシに対し、防除の必要性が高い地域
- B : クモヘリカメムシに対し、防除の必要性が高い地域
- C : クモヘリカメムシの発生に注意が必要な地域
- D : いもち病とクモヘリカメムシに対し、防除の必要性が低い地域

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

水稻病虫害の発生に応じた地域対応型防除体系の確立・平成19～21年・病虫研究室